

第6学年国語科学習指導案

福岡市立飯原小学校 指導教諭 河野 陽一

1 単元名 時を超える旅に出よう ～宮沢賢治が描いた世界～

2 単元目標

【知識・技能】

宮沢賢治の様々な作品を読むことを通して、作品の中の比喻や反復など表現に気づき、宮沢賢治独特の表現の魅力を味わうことができる。

【思考力・判断力・表現力等】

宮沢賢治の作品を比べて読み、人物の言動や叙述が象徴しているものが何かを考えながら読んだり、人物像や物語の全体像を具体的に想像したりして、自分の見方・考え方を深めていく読み方を身に付けることができる。

【学びに向かう力、人間性の涵養等】

表現や構成等に注目して宮沢賢治が描いた作品世界をとらえることに粘り強く取り組み、学習の見通しをもって自分の考えをまとめたり、友達と聴き合ったりしようとしている。

3 単元について

(1) 教材観

宮沢賢治の作品には、宮沢賢治の優れた叙述を通して、宮沢賢治の時代を超えた生き方や考え方を学ぶことができる。子ども達は、1学期の文学的文章の学習「森へ」を通して「命」について考える学習を行っている。本単元において、宮沢賢治の作品に描かれた生き方や考え方を読み取り、自分自身を見つめることは、郷土や自国文化を捉え直し、自分の生き方や考え方を見直す上でも大変意義深い。

本単元における出会いの作品「注文の多い料理店の序」と詩「雨ニモマケズ」は、宮沢賢治の表現の魅力を十分に味わうことができるとともに、宮沢賢治の掴めそうで掴めない人物像を大いに想像することができる。その後、並行読書として宮沢賢治の作品に出会っていく。次に、宮沢賢治の伝記「イーハトーヴの夢」を読むことで、宮沢賢治の「命の循環」や「生き物の平等」を大切にしていた夢や理想をとらえることができる。そして、「注文の多い料理店」を読む。児童は、展開の面白さに惹きこまれるだけでなく、人間と動物との関係についてより深く考えることができるだろう。さらに、教科書教材「やまなし」を読む。初めて「やまなし」を読んだ子ども達は、表現が面白い、描写が美しいという感想を持つ子どもが出てくるのが予想されるが、「何が伝えたいのか分からない」という疑問も生まれてくるであろう。この疑問を軸に、「やまなし」を読み深め、「命のつながり」という作品の心をとらえられるようにする。その後さらに、宮沢賢治の様々な作品と重ね読み、宮沢賢治の作品の心「命のつながり」について読みを広げたり深めたりしていく。きっと、子ども達は多様な考えをつくってくると思われる。「宮沢賢治さんが伝えたいことをより深めたい」という課題を解決するために、宮沢賢治の様々な作品を読み進め、自分の考えをまとめたり、友達と考えを聴き合ったりすることのできる本教材は、批判的・多面的・総合的に考える力を育んだり、他者理解の視点に立ったコミュニケーション力を向上させる上でも大変意義深い。

(2) 児童観

本学級の児童のほとんどは、本を読むことが好きで、読書活動や図書の時間に自分が選んだ本を楽しんで読んでいる。しかし、課外読書については自分から進んで読書活動を行う児童とそうではない児童に二極化している。国語の学習や課題読書などにおいては、文学作品を読むことを楽しいと感じている児童が多いが、文章や作品を対比して読んだり、同じ作者の作品を比べて読んだりするなど、読み方を工夫し、作品の心（主題）について考える学習については十分ではない。また、象徴性の強い表現に気づき、自分の表現に生かしたり、自分の見方・考え方を深め広げていったりする経験については十分ではない。

(3) 指導観

I つかむ段階では

単元名である「時代を超える旅に出よう～宮沢賢治が描いた世界～」についてオリエンテーションを行い、宮沢賢治作品への読書意欲を高められるようにする。ここで扱う「注文の多い料理店の序」と詩「雨ニモマケズ」は、宮沢賢治の表現の魅力を味わうことができるだけでなく、単元を貫いて考えていく作品の心をとらえていく際に大切となる「自然界の美しさ」や「自分を役立てることの素晴らしさ」という時を超えた宮沢賢治の考え方を垣間見ることができる。

II さぐる段階では

まず、宮沢賢治の伝記「イーハトーヴの夢」を読み、宮沢賢治の生き方や考え方をとらえられるようにする。宮沢賢治との出会いの作品として、「注文の多い料理店」を読む。5つの視点をもとに感想をまとめた後、聴き合い活動を行い、作品の心について考えていく。ここで児童は、宮沢賢治の独特な表現で描いた世界の中に、強いメッセージ性があることに気づくことができるであろう。そして、教科書教材「やまなし」を読み、視点に沿って感想を書く。その後、感想を聴き合い活動し、「宮沢賢治さんは『やまなし』で、どんな世界を描きたかったのか、何を伝えたいのかを読み深めよう。」という読みの目当てをとらえられるようにする。この目当てを解決するために、「五月」と「十二月」を対比して読むことに加え、「かわせみ」と「やまなし」が何を意味しているのだろうか、という象徴されたものの意味を考えて読み、自分の考えをまとめていく。読み取ったことを聴き合うことで、「やまなし」では、「かわせみ」に象徴される「他の命をとって生きること」、「やまなし」に象徴される「自分の命を他に与えること」が描かれていることをとらえ、作品の心に「命」が関わっていることをまとめられるようにする。並行読書を行ってきた児童は、宮沢賢治作品には「命のつながり」が描かれているのではないかと、「かわせみ」や「やまなし」に似た登場人物が描かれていることに気づくことができるであろう。

III ひらく段階では

「注文の多い料理店」以外の作品も重ね読み、宮沢賢治が伝えたかったことをまとめる。ここでは、「命のつながり」が描かれている作品を読み進めてくことで、自分の考える作品の心の根拠となる作品を増やしていくことをねらう。作品の心をもとめる際には、作品を4つに絞り、読み取った考えを考えマップという形で表現する。その後、聴き合い活動を行い、作品の心について、自分の考えを深められるようにする。聴き合い活動後は、自分の考えの強化・付加・修正を行い、宮沢賢治の作品の心についての考えやその根拠が広がり、自分の読みを深められることを期待している。その後、自己評価活動や宮沢賢治さんへの手紙を書き、本単元のまとめとする。

(4) ESDとの関連

・ この教材で働かせるESDの視点（見方・考え方）

【多様性】宮沢賢治が描いた作品世界には、時代を超えて大切にすべき生き方や考え方がいろいろある。

【相互性】「かわせみの生き方」と「やまなしの生き方」は私たちの生活と密接な関係にあり、このことを無視して生きていけば地球環境に大きな負荷がかかる。

【有限性】人間も動物も植物も命が無限に存在するものではないことをふまえ、使い捨てが当たり前になったり、大量生産・大量消費が当たり前になっている現実を問題視することが重要である。

【公平性】人間が、今日の前の経済的な損得にばかり気をとられて生きてると、いつか自然界から大きな打撃をあたえられ、自然界からの恩恵を受けられなくなることを考えて生きていくべきである。

【連携性】人間も動物も植物も自然界の中でつながっており、すべての命が平等に扱われることが自然界の命の循環を維持していくことになる。

【責任性】自然界で共に生きる人間や動物や植物のことを「かわせみの生き方」と「やまなしの生き方」の両面からとらえ直し、命の循環に感謝しながら行動することが大切である。

・ この学習を通して育てたいESDの資質・能力

【批判的に考える力（クリティカル・シンキング）】

作品の主題に迫るような読み方ができているか、命の循環を考えた行動ができているか、自分の学び方や生き方を見つめ直すことができる。

【多面的・総合的に考える力（システムズ・シンキング）】

宮沢賢治作品を「命のつながり」を軸に重ね読み、作品の類似点（「かわせみの生き方」や「やまなしの生き方」）に着目することで、作品と作品をつなげて宮沢賢治作品の主題を複数の作品の叙述を根拠にして読み深めことができる。

【コミュニケーション力】

宮沢賢治作品から読み取った自分の考えを「5つの視点による感想」や「考えフリップ」という形式でまとめ、聴くことに主眼を置いた「聴き合い活動」を中心に交流することで、互いの考えを比べながら自分の考えを広げたり深めたりすることができる。

【進んで参加する態度】

宮沢賢治の作品を進んで読書し、複数の作品の叙述を根拠にして作品の主題を考えたり、友達と考えを進んで聴き合ったりして、自分の考えを深めたり広げたりしようとしている。

・ 本学習で変容を促すESDの価値観

【世代間の公正を意識できる】

宮沢賢治の作品と伝記を重ね読み、「宮沢賢治が描いた作品世界・宮沢賢治が生きた時代背景」と「今の時代を取り巻く地球規模の諸問題」をつなげて考えることは、時代を超えて今尚大切にされる「世界がぜんたい幸福にならないうちは個人の幸福はあり得ない」という宮沢賢治の考えをとらえることにつながる。

【自然環境や生態系保全を重視する】

宮沢賢治の作品と伝記を重ね読み、自然環境や生態系に配慮した生き方・考え方を読み取ることが、地球環境への負荷をさげ、「豊かな生産」「豊かな消費」の維持・実現に向けた生き方・考え方を育むことにつながる。

【幸福感を大切にす】

宮沢賢治の作品に描かれた「命の循環」を読み取ることが、個人の幸福だけでなく世界全体の幸福を考え、身近な行動の変化をうながすことになり、「幸せを感じる心」を育むことにつながる。

・ 達成感が期待されるSDGs

- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任 つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう

・ 単元の評価規準

ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等	ウ 主体的に学習に取り組む態度
① 宮沢賢治の様々な作品を読むことは、自分の見方・考え方を広げることに関与することを理解している。	① テーマに沿って、宮沢賢治の複数の作品を比べ読み、自分の考えをまとめることができている。	① 宮沢賢治が描いた作品世界をとらえることに粘り強く取り組もうとしている。
② 作品の中の比喻や反復など表現に気づき、宮沢賢治独特の表現の魅力を味わうことができている。	② 人物の言動や叙述が象徴しているものが何かを考えながら読むことができている。	② 学習の見通しをもって自分の考えをまとめたり、友達と聴き合ったりしようとしている。
③ 作品を象徴するひと・もの・ことが物語の全体像と密接に関わっていることを理解している。	③ 人物像や物語の全体像を想像して、自分の見方・考え方を広げ深めていく読み方を身に付けている。	③ 宮沢賢治の時代を超えた考え方の価値に気づき、これからの自分の行動につなごうとしている。

・ 単元構想図（国語科「時代を超える旅に出よう～宮沢賢治が描いた世界～」）

見つめる	6年生になってからの国語の学習から、「命」について整理しよう。		宮沢賢治の『注文の多い料理店』序と詩「雨ニモマケズ」を読み、宮沢賢治の人物像について考えよう。	
児童の思考	星野道夫さんの「森へ」などの作品には、自然界における命のつながりを読み取ることができた。	道徳「いのちをいただく」では、食物連鎖のアンカーに人間がいることや命をいただいていることを感じた。	宮沢賢治さんが書いた不思議な言葉たちからは、賢治さんが自然の美しさを感じている様子を読み取ることができた。	宮沢賢治さんは、どのような人で、どのようなことを伝えたくて作品を書いたのだろうか。時代を超える人なのだろうか。

宮沢賢治さんが描いた世界を味わい、作品の心を伝えよう。

調べる	宮沢賢治の「注文の多い料理店」「やまなし」や伝記「イーハトーヴの夢」を読み、宮沢賢治さんが伝えたいこと「作品の心」を考えよう。			
児童の思考	伝記「イーハトーヴの夢」を読むと、宮沢賢治さんの生き方や考え方がよく分かる。宮沢賢治さんの作品を読んで、「作品の心」をもっと深く読んでみたい。	「注文の多い料理店」を読むと、人間が動物の命を粗末に扱うような行動を改めるべきだと読み取れる。賢治さんは、人間と動物の関係について考えさせようとしている。	「やまなし」は五月と十二月に分かれているから、二つの世界観を情景描写も含めて対比して読むことで、宮沢賢治さんが伝えたいこと「作品の心」を読み深められるかもしれない。	「かわせみ」は、命をうばう立場で、「やまなし」は命を与える立場。宮沢賢治さんが伝えたかったこと「作品の心」は、「命」が関係しているのではないだろうか。

深める	宮沢賢治の複数の作品を重ね読み、宮沢賢治さんが伝えたいこと「作品の心」を考えよう。 【「やまなし」と重ね読みする作品】 「注文の多い料理店」「オツベルと象」「よだかの星」「なめとこ山の熊」 「北守将軍と三人兄弟の医者」「雪渡り」「風の又三郎」「雨ニモマケズ」 「銀河鉄道の夜」「グスコープドリの伝記」「セロ弾きのゴーシュ」「虔十公園林」			
児童の思考	「注文の多い料理店」を読むと、動物の死を損という紳士の言葉から、紳士たちが命を雑に扱っているように描かれている。宮沢賢治さんは、意味もなく命をうばう行為は許されないと伝えたいと思う。	「なめとこ山の熊」を読むと、熊の死は小十郎が生きるための死であることが読み取れる。宮沢賢治さんは、人が生きていく上で意味のある命の奪った命を大切にしようと思える。	「虔十公園林」を読むと、未来の子どもたちのために虔十公園林が出来上がっていくことや、公園がみんなから認められることが読み取れる。宮沢賢治さんは、人から非難されても、未来のためになる生き方は素晴らしいと伝えたいと思う。	「グスコープドリの伝記」を読むと、自分の命を犠牲にしてまでも、みんなの命を助けようとするブドリの姿が読み取れる。宮沢賢治さんは、自分の命をみんなのために役立てるための素晴らしさを伝えたいと思う。

広げる	宮沢賢治さんが伝えたいこと「作品の心」をもとに、自分の生き方（価値感）を捉え直そう。			
児童の思考	命をとる「かわせみ」のような生き方を人はしているけれど、命をあたえるような「やまなし」の生き方も、自分の力を人のために役立てることでできそう。	宮沢賢治さんの自分の思いや考えを最後まで貫いていることが格好いいと思った。「命」の大切さや「命」のつながりを、様々な場面で感じていきたい。	人のために生きる「利他」の素晴らしさを感じることができた。自然災害も増えてきている。「利己」ではなく、「利他」を大切にしたい生活をしていきたい。	

5 単元の指導計画（全14時間＋課外 本時13／14時）

段階	主な学習活動と内容	支援と手立て	配時
つかむ	<p>1 本単元のオリエンテーションを行い、本単元の見通しを持つ。</p> <p>(1) 単元名や学習計画の説明を受け、「注文の多い料理店の序」と詩「雨ニモマケズ」を読む。</p>	<p>※事前に自作の「宮沢賢治童話集」を配布しておく。</p> <p>※単元名や感想を中心に、単元の目当てをとらえられるようにする。</p>	1
／	<p>単元名 時代を超える旅に出よう ～</p> <p>○ 本単元の見通しを持ったり、宮沢賢治の表現の魅力から「作品の心」を考えたりすること</p>	宮沢賢治が描いた世界 ～	7
さ	<p>2 宮沢賢治作品を読み深める。</p> <p>(1) 「イーハトーヴの夢」を読み、宮沢賢治の生き方や考え方をとらえる。</p> <p>○ 宮沢賢治の夢や理想をとらえること</p>	<p>※生き方や考え方が表れているところにサイドラインを引かせた後、考えをまとめられるようにする。</p>	②
ぐ	<p>(2) 「注文の多い料理店」を読み、宮沢賢治が描いた世界について考える。</p> <p>○ 宮沢賢治が独特な表現で描いた世界の中に、強いメッセージ性があることに気づくこと</p>	<p>※視点を与えて感想をまとめた後、グループと全体で聴き合う。</p>	①
る	<p>(3) 「やまなし」を読み、「やまなし」の読みの目当てをとらえる。</p>	<p>※視点を与えて感想をまとめた後、グループと全体で聴き合う。</p>	②
さ	<p>「やまなし」の読みの目当て 宮沢賢治さんは「やまなし」で、どんな世界を描き、何を伝えたいのかを読み深めよう。</p>		②
ぐ	<p>(4) 「やまなし」を読み深める。</p>	<p>※五月と十二月を対比しやすい学習プリントを用意する。</p>	②
る	<p>「やまなし」の作品の心 宮沢賢治さんは「やまなし」で、五月と十二月のような命をとったり与えたりするような世界を描き、命のつながりを伝えたいのだと思います。</p>	<p>※「かわせみ」や「やまなし」の象徴について考えさせることで、作品の心を読み深められるようにする。</p>	6
／	<p>3 「よだかの星」「ゼロ弾きのゴーシュ」「虔十公園林」「なめとこ山の熊」などを中心に、複数の宮沢賢治作品を読む。</p> <p>(1) 宮沢賢治さんの作品を重ね読む。</p>	<p>※「やまなし」でとらえた「かわせみ」や「やまなし」の象徴を軸に読み進め、作品の心を考えられるようにする。</p>	③
ひ	<p>読み深めの目当て 宮沢賢治さんの作品を重ね読みして、宮沢賢治さんの作品の心について読み深めよう。</p>		①
ら	<p>(2) 考えマップに自分の考えをまとめる。</p> <p>(3) まとめたものをもとに聴き合い、「作品の心」について考えを深める。(本時13／14)</p>	<p>※グループと全体で聴き合い活動を仕組み、作品の心について読みを深めたり広げたりできるようにする。</p>	②
く	<p>宮沢賢治の作品の心 宮沢賢治さんは、命のつながりの大切さを伝えたいのだと思います。そのために、「よだかの星」や「なめとこ山の熊」で命のやりとりを描いたり、「ゼロ弾きのゴーシュ」や「虔十公園林」で自分を役立てることの素晴らしさを描いたりしたのだと思います。</p>		1
	<p>4 単元全体をふり返る。</p> <p>○ 自己評価カードにそって学びをふり返ること</p> <p>○ 単元の学びとつないで、宮沢賢治さんへの手紙の内容を考えること</p>	<p>※自己評価プリントを準備し、学びをふり返りやすいようにする。</p> <p>※手紙のモデルを提示し、どの子どもも取り組みやすいようにする。</p>	

6 本時目標

宮沢賢治の作品の心について、作品を重ね読んだり、根拠となる作品や叙述をもとに友だちと考えを聴き合ったりしながら、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。

7 本時授業仮説

宮沢賢治の時代を超える考え方を読み取る段階で、以下のような手立てをとれば、自分の読みを豊かにすることができるであろう。

- ① どのグループも共通の作品が複数重なるように構成し、それぞれがとらえた宮沢賢治の時代を超える考え方について聴き合う。
- ② まとめた考えの中に、登場人物の生き方が、やまなしで登場した「かわせみ」や「やまなし」の生き方につながる部分から考えを作っている児童による全体の聴き合い活動を行う。
- ③ キーワードを活かして考えをまとめれば、宮沢賢治の作品の心についての考えやその根拠が広がり、自分の読みを豊かにすることができるであろう。

8 本時指導の考え方

これまでに児童は、読み深めの目当て「宮沢賢治さんの作品を重ね読み、宮沢賢治さんの作品の心について読みを深めよう。」について、意欲的に作品を読み進め視点に沿って感想をまとめることに加え、「宮沢賢治童話集」の中に収められている複数の作品にサイドラインを引いたり、付箋紙に読み取ったことをメモしたりしている。その後、教科書教材「やまなし」でとらえた「かわせみ」や「やまなし」の象徴を軸に、読み深めの目当てを解決するための作品を4つに絞り、複数の作品の叙述を根拠にして作品の心を考えマップという表現方法でまとめている。前時には、作品の心が似ている同質グループによる聴き合い活動で自分の考えを見直している。ここでは、自分の考えに自信をもつだけでなく、考えの根拠となる作品に広がりが見られた児童が多かった。

そこで本時では、作品の心が異なる異質による聴き合い活動や代表児童の提案型による全体での聴き合い活動を行い、宮沢賢治の作品の心について読みを広げたり、深めたりしていく。まず、グループで聴き合う。ここでは、自分とはちがう。次に、代表児童の考えをもとに全体での聴き合い、宮沢賢治の作品の心について、読みを広げ深められるようにしていきたい。このとき、児童の考えを板書に構造的に整理していく。さらに、「どうして、かわせみとやまなしのような2つの生き方を様々な作品で書いたのでしょうか。」「他の作品には、「平等」という考えが描かれていますか。」「人は、やまなしのような生き方はできないのでしょうか。」「どうして、たくさんの作品を通して、「命のつながり」について伝えようとしているのでしょうか。」と問いかけ、読み深めの目当てを解決させていきたい。最後に、聴き合い活動を通して見つけた友達の考えのよさやキーワードをもとに、宮沢賢治の時代を超える考え方について自分の考えをまとめる。この時、宮沢賢治の描いた作品の世界について、より深い考えをまとめられることを期待している。

9 準備

教師：考えマップの考えを整理した個人カルテ、発問・板書計画、作品カード、3色の磁石

児童：宮沢賢治童話集、自分の考えをまとめた考えマップ、プリント綴り

10 本時指導の展開

学 習 活 動 と 内 容 (○)	教 師 の 支 援 (※)
<p>1 前時学習をふり返り、本時学習の目当てをとらえる。</p> <p>○ 宮沢賢治の作品を重ね読み、自分の考えを作ってきたことをふり返ること</p>	<p>※板書や掲示をもとに、「宮沢賢治の作品の心」について考えてきたことをふり返られるようにする。</p>
<p>聴き合い活動をして、宮沢賢治さんの作品の心について考えを深めよう。</p>	
<p>2 宮沢賢治が描いた世界について考える。</p> <p>(1) グループで聴き合い活動を行う。</p> <p>○ 根拠となる作品や、作品で描かれた登場人物、内容、表現、象徴、作品の心、「かわせみ」や「やまなし」の生き方などを視点に質問や意見を考えること</p> <p>グループ発表の代表児童の考えの例</p> <p>「よだかの星」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ よだかは、かわせみの生き方に似ている ・ 羽虫を食べる姿は、命のつながりを大切にしている <p>「セロ弾きのゴーシュ」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ゴーシュは、生き物と音楽でつながった ・ 人は、生き物の役に立つために生まれてきた <p>「虔十公園林」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 虔十の生き方は、やまなしに似ている ・ 虔十の人を幸せにする生き方が素晴らしい <p>「なめとこ山の熊」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小十郎が命をとることは、生きていく上で仕方がないことだ ・ 世の中は、命のやりとりで、みなが関係している <p>(2) 全体で聴き合い活動を行う。</p>	<p>※前時までには、作品を4つに絞ることで、児童の思考をうながし、考えを読みの視点を活かしたフリップにまとめている。</p> <p>※考えが違うグループで聴き合い活動を行う。</p> <p>※登場人物、内容、表現、象徴、作品の心、かわせみややまなしの生き方などを視点に聴き合い活動を行い、自分の考えと比べられるようにする。</p> <p>※板書をもとに、代表児童の考えのよさをとらえられるようにする。</p> <p>※聴き合い活動の終盤から「平等」や「やまなしの生き方」を軸に、作品の心に対する根拠を広げていくようにする。</p>
<p>代表児童の考えの例：植物や動物、人間の命は平等であり、どんな命も大切にしなければならない</p> <p>「注文の多い料理店」・・・動物の死を損という→命を雑に扱っている→許されない</p> <p>「なめとこ山の熊」・・・熊の死は小十郎が生きるための死→意味がある→命を大切にしている</p> <p>「虔十公園林」・・・未来の子どもたちのための虔十公園林→みんなから認められる</p> <p>「グスコブドリの伝記」・・・自分を犠牲にしてみんなを助けるブドリ→みんなのヒーローになる</p>	
<p>3 本時学習のまとめ、「今日の学習で」を書く。</p> <p>宮沢賢治の作品の心</p> <p>宮沢賢治さんは、命のつながりの大切さを伝えたいのだと思います。そのために、「よだかの星」や「なめとこ山の熊」で命のやりとりを描き、「セロ弾きのゴーシュ」や「虔十公園林」で自分を役立てることの素晴らしさを描いたのだと思います。</p>	<p>※聴き合い活動を通して見つけた友達の考えのよさやキーワードをもとに、宮沢賢治の時代を超える考え方について自分の考えをまとめる。</p>

1 1 成果と課題

【国語科の目標から】

（知識及び技能）

- 宮沢賢治の様々な作品を読むことを通して、宮沢賢治独特の表現の魅力を味わうことができたとともに、それぞれの作品を象徴する表現に立ち止まることが作品の主題に迫る読みにつながることを理解することができた。
- 単元末に宮沢賢治新聞の作成に取り組むなど、作品をより俯瞰的に読む機会を設けることで、宮沢賢治独特の表現の魅力に浸ることができるのではないだろうか。

（思考力・判断力・表現力等）

- 「命のつながり（かわせみの生き方・やまなしの生き方）」を視点に宮沢賢治の作品を人物の言動や叙述が象徴しているものが何かを考えながら重ね読むことで、単元を通して螺旋的に自分の見方・考え方を深めていくことにつながった。
- 重ね読む際の視点や、重ね読む作品を何にするのか・いくつ読むのか・いつ読むのか・なぜ読むのか・どのように読むのかなどを再検討することで、児童の読みの広がり方や深まり方にちがいが出てくるのではないだろうか。

（学びに向かう力・人間性の涵養等）

- 単元導入時のオリエンテーションや教師作成の宮沢賢治童話集の並行読書により、学習の見通しをもって自分の考えをまとめたり、友達と聴き合ったりしながら宮沢賢治が描いた作品世界をとらえることに粘り強く取り組むことができた。
- 児童が並行読書の計画を立てることや一人一台端末を活用した読書環境を整えること、夏季課題として宮沢賢治読書を取り入れることなど、児童の主体的な学びを支援する方法はいくつもあるのではないだろうか。

【この教材で働かせるESDの視点（見方・考え方）と学習を通して育てたいESDの資質・能力から】

- 【多様性】 宮沢賢治が描いた作品世界には、時代を超えて大切にすべき生き方や考え方がいろいろある。
 - 【相互性】 「かわせみの生き方」と「やまなしの生き方」は私たちの生活と密接な関係にあり、このことを無視して生き続けていけば地球環境に大きな負荷がかかる。
 - 【有限性】 人間も動物も植物も命が無限に存在するものではないことをふまえ、使い捨てが当たり前になったり、大量生産・大量消費が当たり前になっている現実を問題視することが重要である。
 - 【公平性】 人間が、今日の前の経済的な損得にばかり気をとらわれて生きていると、いつか自然界から大きな打撃をあたえられ、自然界からの恩恵を受けられなくなることを考えて生きていくべきである。
 - 【連携性】 人間も動物も植物も自然界の中でつながっており、すべての命が平等に扱われることが自然界の命の循環を維持していくことになる。
 - 【責任性】 自然界で共に生きる人間や動物や植物のことを「かわせみの生き方」と「やまなしの生き方」の両面からとらえ直し、命の循環に感謝しながら行動することが大切である。
- 宮沢賢治の時代を超える生き方や考え方を考えるために、複数の宮沢賢治作品を重ね読むことは、宮沢賢治の描いた世界を読み広げ、その主題を読み深めていく上で大変価値高く、ESDの視点（見方・考え方）【多様性】【連携性】【責任性】を働かせることにつながった。
 - この教材で働かせるESDの視点（見方・考え方）の【相互性】【有限性】【公平性】については、児童のとらえが不十分であったことをふまえると、国語科と他教科をつなぐカリキュラム・マネジメントを試みる実践や年間を通した「命」をテーマに学びを深めていく実践が望まれる。

【この学習を通して育てたいESDの資質・能力から】

【批判的に考える力（クリティカル・シンキング）】

作品の主題に迫るような読み方ができているか、命の循環を考えた行動ができているか、自分の学び方や生き方を見つめ直すことができる。

【多面的・総合的に考える力（システムズ・シンキング）】

宮沢賢治作品を「命のつながり」を軸に重ね読み、作品の類似点（「かわせみの生き方」や「やまなしの生き方」）に着目することで、作品と作品をつなげて宮沢賢治作品の主題を複数の作品の叙述を根拠にして読み深めことができる。

【コミュニケーション力】

宮沢賢治作品から読み取った自分の考えを「5つの視点による感想」や「考えフリップ」という形式でまとめ、聴くことに主眼を置いた「聴き合い活動」を中心に交流することで、互いの考えを比べながら自分の考えを広げたり深めたりすることができる。

【進んで参加する態度】

宮沢賢治の作品を進んで読書し、複数の作品の叙述を根拠にして作品の主題を考えたり、友達と考えを進んで聴き合ったりして、自分の考えを深めたり広げたりしようとしている。

- 5つの視点を与えて感想をまとめることや重ね読んでつくった自分の考えをフリップに整理することは、どの児童も取り組みやすく、より深い思考を働かせることができたと言える。また、視点が明確であることが聴き合い活動の活性化を促し、友達の考えに対して質問や確かめを行うだけでなく、自分の意見を付け加えていくことができるため、考えに深まりや広がりが見られた。このことは、学習を通して育てたいESDの資質・能力【コミュニケーション力】【多面的・総合的に考える力（システムズ・シンキング）】【進んで参加する態度】を育むことにつながったと考える。
- 【批判的に考える力（クリティカル・シンキング）】における作品の主題に迫るような読み方については概ね達成できていたと言えるが、「命の循環を考えた行動ができているか、自分の学び方や生き方を見つめ直すことができているか」の見取りについては十分ではない。宮沢賢治作品から読み取った時代を超える考え方や生き方を自分の行動につなげられたかどうかを見取っていくには、継続的なふり返りや他の教育活動との連携が欠かせない。

【本学習で変容を促すESDの価値観から】

【世代間の公正を意識できる】

宮沢賢治の作品と伝記を重ね読み、「宮沢賢治が描いた作品世界・宮沢賢治が生きた時代背景」と「今の時代を取り巻く地球規模の諸問題」をつなげて考えることは、時代を超えて今尚大切にされる「世界がぜんたい幸福にならないうちは個人の幸福はあり得ない」という宮沢賢治の考えをとらえることにつながる。

- 「宮沢賢治が描いた作品世界・宮沢賢治が生きた時代背景」と「東日本大震災における被災と復興に向けた人々の思いや行動」をつなげて考えるために、複数の宮沢賢治作品を重ね読むことや道徳や総合的な学習の時間とつないで学ぶことは、本単元名にある「時代を超える旅に出よう」のねらいのひとつでもある作品が時間と空間を超えることにつながり、世代間の公正を意識できることにもつながった。

さらに、

- 近年福岡でも多発している異常気象による自然災害をテーマ（九州北部豪雨における伝統的工芸品の産地である小石原地区の被災と復興に向けた人々の思いや行動）にした実践やSDGs とつないだ実践を試みることで、世代間の公正だけでなく、世代内の公正にもつながるのではないだろうか。

【自然環境や生態系保全を重視する】

宮沢賢治の作品と伝記を重ね読み、自然環境や生態系に配慮した生き方・考え方を読み取ることが、地球環境への負荷をさげ、「豊かな生産」「豊かな消費」の維持・実現に向けた生き方・考え方を育むことにつながる。

- **【自然環境や生態系保全を重視する】**においては、宮沢賢治の描いた生態系に配慮した生き方や考え方をとらえることにつながった。

しかし、

- 地球環境への負荷をさげることや「豊かな生産」「豊かな消費」の維持・実現に向けた生き方・考え方を育むことについては十分ではなかったことから、総合的な学習の時間や学校規模で年間や6年間を見通した系統性のあるカリキュラムの作成が必要であると考えられる。

【幸福感を大切に作る】

宮沢賢治の作品に描かれた「命の循環」を読み取ることが、個人の幸福だけでなく世界全体の幸福を考え、身近な行動の変化をうながすことになり、「幸せを感じる心」を育むことにつながる。

- 宮沢賢治作品の主題につながる「命の循環」を読み取ることが十分にできた。

しかし、

- 「個人の幸福だけでなく世界全体の幸福を考え、身近な行動の変化をうながすこと」については十分ではなかったことから、命の循環だけでなく、日常における学習・生活・当番活動・係活動・委員会活動などにおいて、「利他」の意識を大切にしながら人とのつながりの中で小さな幸せを感じられる心を育んでいく教育活動を仕組んでいくことが求められる。

学年修了時に目指す姿

宮沢賢治作品から読み広げたり深めたりした時代を超えて今尚大切にされる「命の循環」や「世界がぜんたい幸福にならないうちは個人の幸福はあり得ない」という宮沢賢治の生き方・考え方を土台に、様々な教育活動の中で身近な行動の変化を意識することで、「幸せを感じる心」を育むことができる。



<p>総合的な学習の時間 「生きる力を支える人・もの・ことに出会い、生き方や将来の展望を伝えよう」 国語科を軸に、様々な教育活動で出会った生きる力を支える人・もの・ことをもとに自分の生き方や将来の展望について考え、スピーチ形式で伝え合う。</p>	<p>道徳 「利他」 東日本大震災で被災した子どもが懸命に働く姿から自己犠牲の精神の魅力について考える。</p>	<p>道徳 「命をいただく」 食物連鎖のアンカーとして人が活かされていることや動植物の命をいただいていることを感じる。</p>	<p>当番活動 一人一役の当番や給食当番の仕事に責任をもって取り組むことが、集団生活を進めていく上で大切なことに気づく。</p>	<p>係活動 よりよい学級を築いていくために自主的・主体的に行動することが自分の力を役立てることになることを経験する。</p>	<p>委員会活動 所属する委員会で Think Globally, Act Locally. の見方・考え方で行動する素晴らしさを経験する。</p>
--	---	--	---	--	--

国語「時代を超える旅に出よう～宮沢賢治が描いた世界～」

<p>【主に育てたいESDの資質・能力】 【批判的に考える力（クリティカル・シンキング）】 作品の主題に迫るような読み方ができているか、命の循環を考えた行動ができているか、自分の学び方や生き方を見つめ直すことができる。 【多面的・総合的に考える力（システムズ・シンキング）】 宮沢賢治作品を「命のつながり」を軸に重ね読み、作品の類似点（「かわせみの生き方」や「やまなしの生き方」）に着目することで、作品と作品をつなげて宮沢賢治作品の主題を複数の作品の叙述を根拠にして読み深めことができる。 【コミュニケーション力】 宮沢賢治作品から読み取った自分の考えを「5つの視点による感想」や「考えフリップ」という形式でまとめ、聴くことに主眼を置いた「聴き合い活動」を中心に交流することで、互いの考えを比べながら自分の考えを広げたり深めたりすることができる。 【進んで参加する態度】 宮沢賢治の作品を進んで読書し、複数の作品の叙述を根拠にして作品の主題を考えたり、友達と考えを進んで聴き合ったりして、自分の考えを深めたり広げたりしようとしている。</p>	<p>【主に育てたいESDの価値観】 【世代間の公正を意識できる】 宮沢賢治の作品と伝記を重ね読み、「宮沢賢治が描いた作品世界・宮沢賢治が生きた時代背景」と「今の時代を取り巻く地球規模の諸問題」をつなげて考えることは、時代を超えて今尚大切にされる「世界がぜんたい幸福にならないうちは個人の幸福はあり得ない」という宮沢賢治の考えをとらえることにつながる。 【自然環境や生態系保全を重視する】 宮沢賢治の作品と伝記を重ね読み、自然環境や生態系に配慮した生き方・考え方を読み取ることが、地球環境への負荷をさげ、「豊かな生産」「豊かな消費」の維持・実現に向けた生き方・考え方を育むことにつながる。 【幸福感を大切にす】 宮沢賢治の作品に描かれた「命の循環」を読み取ることが、個人の幸福だけでなく世界全体の幸福を考え、身近な行動の変化をうながすことになり、「幸せを感じる心」を育むことにつながる。</p>
--	---

<p>社会（歴史） 柳宗悦、杉原千畝、田中正造、南方熊楠、岡倉天心などから、誰かのため、何かのために行動する生き方の歴史的価値について調べる。</p>	<p>理科（生物の関わり） 植物を出発点とした、「食べる・食べられる」という関係で1本の線のようにつながりである「食物連鎖」を調べる。</p>	<p>家庭科&歓迎遠足 保護者といっしょに食材の購入や弁当作りに取り組むことを通して、食材選びの工夫や料理から食事までに関する興味・関心を高める。</p>	<p>給食指導 福岡で獲られたブリを活かしたギョロツケについて学ぶことを通して、地産地消による生態系の保持や漁獲量の維持について考える。</p>	<p>読み聞かせ 本橋成一のドキュメンタリー写真絵本の「うちは精肉店」を通して、命をつなぐ仕事や、その仕事に支えられている自分たちに気づく。</p>	<p>行事（修学旅行） 原子爆弾投下による甚大な被害を受けた長崎の地において、平和と復興に向けて懸命に行動した永井隆博士の生き方について調べる。</p>	<p>音楽発表会 宮沢賢治が作詞・作曲した「星めぐりのうた」を聞いたり歌ったりすることを通して、自然の美しさを音で味わう魅力を感じる。</p>
--	--	--	---	---	---	--